

(様式例2)

科目別シラバス(学習計画)

科目名(時間)	1 職務の理解(6時間)		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)多様なサービスの理解	0.0時間	3.0時間	<p>〈講義内容〉 第1章 職務の理解 介護職の仕事と働く現場の理解 [1] 介護の社会化と介護保険制度の創設 [2] キャリアパスと介護職員初任者研修 (概要) 介護の社会化と介護保険制度について学習をすすめる。キャリアパスと初任者研修の内容(システム)を学習する。</p>
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	0.0時間	3.0時間	<p>〈講義内容〉 第1章 職務の理解 介護職の仕事と働く現場の理解 [1] 介護職の仕事と働く場所 [2] 介護の業務 [3] 介護過程 (概要) 初任者研修は130時間という限られた時間の中で最低限度の必要な知識・技術を学習するので継続した適切な学習をすすめる。 (演習内容) 「介護職の仕事内容」について班体制を用いてグループディスカッションを行う。 (指導体制) 20人を超える場合は、補助講師を設ける。</p>
合計時間数	0.0時間	6.0時間	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。

演習については実技内容(演習手法等)を、実習については実施方法(学習目的等)を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス(学習計画)

科目名(時間)	2 介護における尊厳の保持・自立支援(9時間)		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)人権と尊厳を支える介護	3.0時間	1.0時間	<p><通信学習課題の内容> 人権と尊厳を支える介護 <講義内容> 第1章 人権と尊厳を支える介護 第1節 人権と尊厳の保持 [1] 人間の尊厳と自立 [2] ノーマライゼーションの意義 [3] 個人の尊厳と法制度 (概要) ノーマライゼーションの考え方、アドボカシー、エンパワメントの視点や利用者のプライバシーの保護を理解する介護分野におけるICFの観点、QOLの考え方を学ぶ。 日本国憲法(幸福追求権、生存権等)介護保険法(忠実義務等)を学ぶ。 第5節 虐待防止・身体拘束禁止 [1] 高齢者虐待 [2] 身体拘束の禁止 (概要) 高齢者の養護者支援の観点から、身体拘束禁止・高齢者虐待防止法等の法制度について学習する。 介護実践のために必要な基礎的知識を深め、個人情報保護法・成年後見制度・日常生活自立支援事業について学習する。</p>
(2)自立に向けた介護	4.5時間	0.5時間	<p><通信学習課題の内容> 自立に向けた介護 <講義内容> 第2章 自立に向けた介護 第1節 自立に向けた介護 [1] 自立に向けた介護の考え方 第2節 介護予防 [1] 介護予防の考え方 (概要) 介護を受ける人の尊厳を守ることの意義や配慮すべきことを同じ人として理解するためには、自立、自律した生活を支える必要性について学習する。その人の自立支援に向けて、残存能力の活用や意欲を高める支援、個別性・個別ケアについて理解する。また、自立における介護予防の考え方を理解する。</p>
合計時間数	7.5時間	1.5時間	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。

演習については実技内容(演習手法等)を、実習については実施方法(学習目的等)を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス(学習計画)

科目名(時間)	3 介護の基本(6時間)		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携	0.6時間	2.0時間	<p><通信学習課題の内容> 介護職の役割、専門性と多職種との連携 <講義内容> 第1章 介護職の役割、専門性と多職種との連携 第1節 介護環境の特徴の理解 [1] 介護環境の理解 [2] 地域包括ケアの方向性 (概要) 施設と居宅という介護環境の特性を理解し(訪問介護と施設介護サービスのちがい)地域包括ケアの方向性を理解する。 第2節 介護の専門性 [1] 専門職としての介護の視点 [2] チームアプローチの実際 (概要) 専門職が行う介護の視点(重度化の防止・遅延化の視点)利用者主体の介護支援姿勢・自立した生活を支えるための援助・エビデンスのある介護の学習を深める。 チームケア(事業者内も含めて)多職種からなるチーム(医行為と医療的ケア)についても理解をする。 第3節 介護に関わる職種 [1] 多職種連携における介護職の役割 [2] 医療と介護との連携の必要性 (概要) 異なる専門性をもつ多職種の理解(介護支援専門員サービス提供責任者、看護師)と利用者を支える意味を考える。互いの専門職能力を活用した効果的なサービス、チームケアにおける役割分担について理解を深める。</p>
(2)介護職の職業倫理	0.8時間	0.4時間	<p><通信学習課題の内容> 介護職の職業倫理 <講義内容> 第2章 介護職の職業倫理 第1節 介護サービスの公共性と職業倫理 [1] 介護サービスの公共性 [2] 介護職としての倫理の必要性 (概要) 専門職としての倫理の意義、介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等)、介護職としての社会的責任を理解する。 第2節 利用者・家族に対する責任 [1] 利用者・家族との関係 [2] 利用者の自己決定の尊重 (概要) プライバシーの保護。尊重について学習を深める。 第3節 社会に対する責任 [1] 倫理と規範 [2] 規定されている倫理 [3] 日本介護福祉士会倫理綱領 (概要) 介護職としての社会的責任を理解する日本介護福祉士会倫理綱領を学び、専門職種として倫理の意義を理解する。</p>

(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント	0.8時間	0.3時間	<p><通信学習課題の内容> 介護における安全の確保とリスクマネジメント <講義内容> 第3章 介護における安全の確保とリスクマネジメント 第1節 介護における安全の確保 [1] サービス提供と安全管理体制 [2] 事故の分類と実態 (概要) 事故に結びつく要因を探り対処していく技術を高める介護上のリスクマネージメントを理解し、ハザードの学習を深める。 第2節 事故予防安全対策 [1] リスクマネジメント [2] 事故発生時の対応 (概要) リスクマネジメント(分析と手法と視点)事故にいたる経緯の報告(家族・市町への報告方法等)や情報の共有の重要性を理解する。 第3節 感染対策のための基本的知識 [1] 感染の原因と経路 [2] 感染源の排除、感染経路の遮断 [3] 感染症の治療 [4] スタンダード・プリコーション(標準予防策) [5] 手洗い [6] 手袋 [7] うがい [8] マスク、エプロン [9] 洗浄と消毒 [10] 隔離 (概要) 感染対策 感染の原因と経路(感染源の排除、感染経路の遮断)感染に対する正しい知識を学習する。</p>
(4)介護職の安全	0.8時間	0.3時間	<p><通信学習課題の内容> 介護職の安全 <講義内容> 第4章 介護職の安全 第1節 健康管理とストレスマネジメント [1] 介護職の健康管理 [2] 身体的疲労 (概要) 介護職の健康管理が介護の質に影響することを理解する。ストレスマネジメントについても学習する。 介護職の腰痛予防に関する知識を深め、感染対策(手洗い、うがい)の徹底をはかることを理解する。 第2節 介護職員の労働の権利と労働法 [1] 権利と労働法 [2] 介護職員と労働法 [3] 訪問介護員の労働時間として認められる業務 (概要) 権利と労働法に学び、訪問介護員の労働時間としての認められる業務について学習する。</p>
合計時間数	3.0時間	3.0時間	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。

演習については実技内容(演習手法等)を、実習については実施方法(学習目的等)を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス(学習計画)

科目名(時間)	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携(9時間)		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)介護保険制度	2.5時間	0.5時間	<p><通信学習課題の内容></p> <p>介護保険制度</p> <p><講義内容></p> <p>第1章 介護保険制度</p> <p>第1節 介護保険制度創設の背景、目的および動向</p> <ul style="list-style-type: none"> [1] 介護保険制度創設の背景 [2] 介護保険制度創設までの経緯 [3] 介護保険制度施行後の状況 [4] 介護保険制度の目的等 <p>(概要)</p> <p>介護保険制度にいたる経緯の理解(措置制度との対比)介護保険の目的(ケアマネジメントの導入、予防重視型システムへの転換)地域包括ケアシステムへの推進を学習する。</p> <p>第2節 介護保険制度のしくみの基本的理</p> <ul style="list-style-type: none"> [1] 介護保険制度の基本的しくみ [2] 保険給付とその種類 [3] 要介護・要支援の認定の手順 [4] 利用者負担 <p>[5] 地域支援事業および地域包括支援センター</p> <p>(概要)</p> <p>保険制度としての基本的仕組み、介護給付とその種類、予防給付、要介護認定の手順を理解する。介護支援専門員の役割理解。介護サービス情報公表の意義を理解する。介護保険制度を支える財源とその財政負担、指定介護サービス事業者の指定についても学習をする。</p>
(2)医療との連携とリハビリテーション	2.5時間	0.5時間	<p><通信学習課題の内容></p> <p>医療との連携とリハビリテーション</p> <p><講義内容></p> <p>第2章 医療との連携とリハビリテーション</p> <p>第1節 医行為と介護</p> <ul style="list-style-type: none"> [1] 医行為とは—法律的な理解 [2] 介護職が行う医行為 <p>(概要)</p> <p>介護職が行う医行為の範囲を学び、介護者としての対応を理解する。</p> <p>第2節 医療と介護の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> [1] 疾病構造の変化と高齢化 [2] 介護サービス利用者から見た医療の現在 [3] ケア提供者から見た在宅医療の現在 [4] ケアにおける連携の特徴 [5] ケアにおける連携の工夫 <p>(概要)</p> <p>医療と介護の役割とその連携について理解する。医療職種の連携、訪問看護サービスの成り立ちや施設における看護と介護の役割・連携について学習する。</p> <p>第3節 リハビリテーション職種とその連携</p> <ul style="list-style-type: none"> [1] リハビリテーションの理念と目的 [2] リハビリテーション医療の過程 <p>(概要)</p> <p>リハビリテーションの理念・医療の過程について学習する。</p>

(3)障がい者総合支援制度およびその他制度	2.5時間	0.5時間	<p><通信学習課題の内容> 障がい者総合支援制度およびその他制度 <講義内容> 第3章 障がい者総合支援制度およびその他制度 第1節 障がい者福祉制度の理念 [1] 障がい者の自立と社会参加 [2] 法制度の理念と障がいの概念 (概要) 障がいの概念・自立、ICF(国際生活機能分類)の理解をする。障がい者福祉制度の理念を学習する。 第2節 障がい者総合支援制度のしくみの基礎的理解 [1] 障がい福祉サービスの体系 [2] 障がい福祉サービスとの併用 (概要) 障がい者総合支援法の概要・介護給付・訓練等給付申請から支給決定の流れを理解する。 第3節 個人の権利を守る制度の概要 [1] 個人情報保護法 [2] 成年後見制度 [3] 日常生活自立支援事業 (概要) 個人情報保護法、成年後見制度、日常生活支援事業などの権利擁護のしくみを理解する。</p>
合計時間数	7.5時間	1.5時間	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。

演習については実技内容(演習手法等)を、実習については実施方法(学習目的等)を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス(学習計画)

科目名(時間)	5 介護におけるコミュニケーション技術(6時間)		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)介護におけるコミュニケーション	2.0時間	1.0時間	<p><通信学習課題の内容> 介護におけるコミュニケーション <講義内容> 第1章 介護におけるコミュニケーション 第1節 介護におけるコミュニケーションの技法 [1] 生活場面におけるコミュニケーション [2] 相談援助技術の重要性 (概要) 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割を理解する。相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感するコミュニケーションの基礎を学ぶ。 第2節 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 [1] 利用者の心理とコミュニケーション [2] 家族とのコミュニケーション (概要) 利用者の思いを把握し、意欲低下の要因を考えるまた家族の心理的・理解、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないような考え方を学ぶ。 第3節 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 [1] 言語・視覚・聴覚障がい者とのコミュニケーション [2] 失語症・構音障がい者とのコミュニケーション [3] 認知症に応じたコミュニケーション技術 (概要) 言語・視覚・聴覚・失語症・構音障がい・認知症に応じたコミュニケーション技術を学ぶ。</p>
(2)介護におけるチームのコミュニケーション	1.0時間	2.0時間	<p><通信学習課題の内容> 介護におけるチームのコミュニケーション <講義内容> 第2章 介護におけるチームのコミュニケーション 第1節 観察、記録、情報伝達 [1] チームケアに不可欠な情報の共有化 [2] 情報の共有化をするための記録 [3] 報告・連絡・相談 (概要) チームアプローチの形態とその連携について理解する。介護における記録の意義と目的(利用者の状態を踏まえた観察)について学ぶ、記録の種類、個別援助計画書(訪問通所・入所・福祉用具貸与等)の内容を理解する。ヒヤリハット、事故報告書についてのちがいや記入方法を理解する。5W1Hを理解する。報告連絡相談の必要性を理解する。 第2節 コミュニケーションを促す環境 [1] 共感的理解とコミュニケーション [2] 情報の共有とチーム内のコミュニケーション (概要) 会議など情報共有の場(役割の認識の場)の重要性を理解する。ケアカンファレンスの重要性を学習する。 <演習実施方法> 【個人】介護場面を想定したイラストから、5W1Hを用いて、介護記録を記入する。 【グループ】個人で作成した介護記録をグループ内で発表し、それぞれ足りない情報を補い、グループの記録として発表する。</p>
合計時間数	3.0時間	3.0時間	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。

演習については実技内容(演習手法等)を、実習については実施方法(学習目的等)を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス(学習計画)

科目名(時間)	6 老化の理解(6時間)		
到達目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常	1.0時間	2.0時間	<p><通信学習課題の内容> 老化に伴うこころとからだの変化と日常 <講義内容> 第1章 老化に伴うこころとからだの変化と日常 第1節 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 [1] 感覚・知覚の変化 [2] 注意力の変化と反応の変化 [3] 記憶の変化 [4] 知能の変化 [5] 感情の変化 [6] 性格の変化 (概要) 利用者のことを理解して介護に従事しなければならない。出生から高齢になるまでの過程を理解し、加齢に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響、防衛反応の変化を理解する。 第2節 老化に伴うからだの変化と日常 [1] 加齢の生理学 (概要) 加齢に伴う身体機能の変化(咀嚼機能、筋・骨関節、体温維持機能の変化)を理解する。</p>
(2)高齢者と健康	2.0時間	1.0時間	<p><通信学習課題の内容> 高齢者と健康 <講義内容> 第2章 高齢者と健康 第1節 高齢者の疾病と生活上の留意点 [1] 身体的・精神的機能の変化と病気、日常生活への影響 [2] おもな症状とチェックポイント (概要) 身体的・精神的機能の変化と病気・日常生活への影響を理解する。骨折・筋力低下と動き・姿勢の変化を理解する。関節痛など症状を観察して変化について理解する。 第2節 高齢者に多い病気とその日常生活の留意点 [1] 生活習慣病とメタボリックシンドローム [2] 高血圧と糖尿病 [3] 循環器系の病気(循環器障害) [4] 呼吸器の病気 [5] 消化器の病気 [6] 代謝・内分泌の病気 [7] 脳神経系の病気 [8] 運動器の病気 [9] アレルギー・膠原病・免疫の病気 [10] 血液の病気 [11] 腎臓・泌尿器の病気 [12] こころの病気 [13] 眼の病気 [14] 耳・鼻・喉の病気 [15] 皮膚の病気 [16] 歯の病気 [17] 感染による病気 [18] 介護保険の特定疾病 (概要) 循環器障害(脳梗塞・脳出血・虚血性心疾患)の危険因子とその予防対策について、老年期うつ病(強い不安感、焦燥感の多さが前面に出る特徴)うつ病性仮性認知症、嚥性肺炎の危険性も理解する。介護保険の特定疾病も理解する。 病状の細やかな変化に気づく介護ができるよう、身体的機能や精神機能の変化についての知識を深める。</p>
合計時間数	3.0時間	3.0時間	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。

演習については実技内容(演習手法等)を、実習については実施方法(学習目的等)を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス(学習計画)

科目名(時間)	7 認知症の理解(6時間)		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)認知症を取り巻く状況	1.0時間	0.5時間	<通信学習課題の内容> 認知症を取り巻く状況 <講義内容> 第1章 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念 〔1〕認知症介護の基本原則 〔2〕最新の認知症ケア (概要) 認知症ケアの視点(できることに着目する)。 パーソンセンタードケアの考え方を学習する。
(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	0.5時間	1.0時間	<通信学習課題の内容> 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 <講義内容> 第2章 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 第1節 認知症の概念 〔1〕認知症とはなにか 〔2〕もの忘れと認知症との違い 〔3〕認知症の初期症状 〔4〕認知症の診察と診断 (概要) 認知症の定義について学ぶ。もの忘れと認知症の違いを理解する。認知症の初期症状の具体例を理解する。認知症機能検査・行動評価尺度について理解する。 第2節 認知症の原因疾患とその病態 〔1〕アルツハイマー型認知症 〔3〕血管性認知症 〔4〕レビー小体型認知症 〔5〕前頭側頭型認知症 〔6〕その他の認知症 (概要) 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイントとその健康管理について理解する。 第3節 原因疾患別のケアのポイントと健康管理 〔1〕認知症の中核症状 〔2〕認知症の行動・心理症状(BPSD) 〔3〕中核症状の薬物療法 〔4〕行動・心理症状の薬物療法 (概要) せん妄の症状・健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止・口腔ケア)・治療・薬物療法・認知症に使用される薬などを理解する。

(3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	0.5時間	1.0時間	<p><通信学習課題の内容> 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 <講義内容> 第3章 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 第1節 認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 [1] 問題行動・行動障がい・BPSD [2] 行動・心理症状の基本的な考え方 [3] 行動・心理賞状(BPSD)への対応 (概要) 認知症の中核症状・認知症の行動・心理症状(BPSD)について学ぶ。 第2節 認知症の利用者への対応 [1] 日常生活支援の基本的対応 [2] 環境整備と基本的対応 [3] 心理学的援助方法論 <演習実施方法> 不適切なケア・生活環境で改善した事例をもとに事例検討するとともに、事例の内容 ご本人の気持ちを推察し、自尊心を傷つけない、相手の世界に合わせる、失敗しないような状況をつくる、すべての援助行為がコミュニケーションであることを学ぶ。身体を通したコミュニケーションを大切にし、利用者の様子、表情、視線、姿勢などから気持ちを理解し、認知症の進行に合わせたケアの重要性について学ぶ。</p>
(4)家族への支援	1.0時間	0.5時間	<p><通信学習課題の内容> 家族への支援 <講義内容> 第4章 家族への支援 第1節 認知症家族介護者の現状の理解 [1] 家族介護者の介護負担 [2] 認知症のケアとは [3] 家族介護者のできること (概要) 家族介護の負担感やその要因を理解する。認知症の受容過程での援助を理解する。家族介護者が在宅できることと社会サービスの有効利用について理解する。ストレスについて列挙する。 第2節 認知症をもつ人の声、そして家族の声 [1] 「認知症と共に生きる私」の声を聞く [2] 当事者や介護家族の思いに見る諸相 [3] 認知症との出会い、その支援について [4] 介護者をめぐる「3つの修羅」 [5] 家族の願い [6] レスパイとケアの充実を願って (概要) 家族の介護負担の軽減(レスパイトケア)の重要性について理解する。</p>
合計時間数	3.0時間	3.0時間	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。

演習については実技内容(演習手法等)を、実習については実施方法(学習目的等)を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス(学習計画)

科目名(時間)	8 障害の理解(3時間)		
到達目標	障害の概念とICFについて解説ができ、各障害の内容、特徴および障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)障害の基礎的理解	0.5時間	0.5時間	<通信学習課題の内容> 障害の基礎的理解 <講義内容> 第1章 障害の基礎的理解 第1節 障害の概念とICF [1] 障害とは [2] 障害の構造 [3] 障害の受容 (概要) 障害の構造・障害の受容について理解を深める。 第2節 障害者福祉の基本理念 [1] ノーマライゼーションの概念 [2] リハビリテーションとは [3] インクルージョンとは (概要) ノーマライゼーションの概念、リハビリの定義、インクルージョンの理解を深める。
(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	0.5時間	0.5時間	<通信学習課題の内容> 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 <講義内容> 第2章 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 第1節 身体がい害 [1] 視覚障害 [2] 聴覚障害 [3] 平衡機能障害 [4] 音声障害、言語障害 [5] 咀しゃく障害 [6] 肢体不自由 [7] 内部障害 (概要) 各障害の内容、特徴および障害に応じた社会支援の考え方について理解を深める。 第2節 知的障害 [1] 知的障害者の生活上の困難 [2] 知的障害者の心理と行動特徴 [3] 知的障害者の支援 (概要) 知的障害を理解する。 第3節 精神障害 [1] 精神疾患 [2] 高次脳機能障害 [3] 発達障害 (概要) 精神疾患、高次脳機能障害、広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害の理解を深める。 第4節 強度行動障害 [1] 強度行動障害とは [2] なぜ強度行動障害になるのか [3] 強度行動障害を持つ人への支援 [4] 家族への支援 (概要) 強度行動障害の人に対し適切な支援を理解する。 第5節 難病 [1] 難病とはどのような病気か [2] 難病の特徴 [3] おもな難病 [4] 難病患者の生活上の障害 [5] 難病患者の心理の実際 [6] 難病治療について 難病とはどのような病気か、及び特徴、おもな難病、難病患者の生活上の障害、心理の実際、治療についての理解を深める。

(3) 家族心理、かかわり支援の理解	0.5時間	0.5時間	<通信学習課題の内容> 家族、心理、かかわり支援の理解 <講義内容> 第3章 家族の心理、かかわり支援の理解 第1節 家族への支援 [1] 障害の理解・障害の受容支援 [2] 障害の受容の理解 (概要) 障害をもつ家族への支援や受容姿勢を理解する。レスパイトケアについて学習をすすめる。 <演習実施方法> 障害を持つ人を家族に持つ人に対して、どのような支援ができるのかを、グループで話し合う。
合計時間数	1.5時間	1.5時間	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。

演習については実技内容(演習手法等)を、実習については実施方法(学習目的等)を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス(学習計画)

科目名(時間)	9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75時間)		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)介護の基本的な考え方	1.0時間	3.0時間	<p><通信学習課題の内容> 介護の基本的な考え方 <講義内容> 第1章 介護の基本的な考え方 第1節 介護の基本的な考え方 [1] 理論と法的根拠に基づく介護 [2] 基本的な介護技術の原則 [3] 介護保険制度下の介護サービス (概要) 倫理に基づく介護と法的根拠に基づく介護の理解を深める。 第2節 重度化防止の視点 [1] 介護予防とは [2] 介護予防を重視する背景 [3] 介護予防プログラム (概要) 生活のなかの介護予防の考え方や方法について説明できる。介護予防プログラムによる機能低下の考え方や方法について理解する。</p>
(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解	1.0時間	2.0時間	<p><通信学習課題の内容> 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 <講義内容> 第2章 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 第1節 高齢者の心理 [1] 加齢に伴う変化とその心理 [2] 高齢期のバーソナリティと適応 (概要) 加齢に伴う変化とその心理の理解を深め、高齢期のバーソナリティとその適応について理解する。 第2節 自己実現と生きがいづくり [1] 高齢期の喪失体験 [2] マズロー欲求の5段階と生きがい [3] 生きがいとはなにか [4] 生きがいづくり支援 [5] 感情と意欲の基礎知識 (概要) 高齢期の感情と意欲の減退について理解する。生きがい支援の具体化について学習する。</p>
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	1.0時間	2.0時間	<p><通信学習課題の内容> 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 <講義内容> 第3章 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 第1節 人体の名称とはたらき [1] 人体各部の名称 [2] 人体各部のはたらき [3] 骨・関節・筋に関する基礎知識 (概要) 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識を深める。骨、関節、筋に関する基礎知識を理解する。 第2節 運動動作に関する基礎知識 [1] からだの動きの基本(基本動作) [2] ボディメカニクスの原則と介護への活用 (概要) 身体動作、ボディメカニクスの原則と介護への活用を学習する。 第3節 神経系に関するからだのしくみ [1] 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 [2] 中枢神経系 [3] 末梢神経系 (概要) 中枢神経系や末梢神経系に関する基礎知識を深める。 第4節 バイタルチェック [1] バイタルサインとは [2] 脈拍・心拍 [3] 血圧 [4] 体温 [5] 呼吸 (概要) バイタルチェックの定義や理解を深める。</p>

(4)生活と家事	1.0時間	1.0時間	<p><通信学習課題の内容> 生活と家事 <講義内容> 第4章 生活と家事 第1節 家事と生活の理解 [1] 家事援助の必要性と目的 [2] 信頼関係の構築と秘密保持 [3] 利用者の価値観に合わせた生活支援 (概要) 家事支援の必要性とその目的を学び、利用者との信頼関係の構築と秘密保持の重要性を理解する。生活歴を理解し、利用者に合わせた自立支援の重要性を学ぶ。 第2節 家事援助に関する基礎知識と生活支援 [1] 家事援助とは [2] 調理 [3] 掃除 [4] 洗濯 [5] 被服の補修 (概要) 家事援助の具体例や多様な生活習慣は、個々の価値観の大切さを理解する。 家事支援は、利用者の自立とQOLの向上に向けた援助であることを学ぶ。 <演習実施方法> 利用者の被服の補修として、ボタンつけをおこない、補修技術について学ぶ。</p>
(5)快適な居住環境整備と介護	1.0時間	1.0時間	<p><通信学習課題の内容> 快適な居住環境整備と介護 <講義内容> 第5章 快適な居住環境整備と介護 第1節 住環境整備 [1] 住宅の役割と機能 [2] 家庭内に多い事故 [3] 高齢者・障がい者にとって快適な住まい [4] 住宅の汚れ掃除 (概要) 快適な居住環境に関する基礎知識や高齢者特有の居住空間について学ぶ。 第2節 福祉用具の活用 [1] 福祉用具の活用に当たって (概要) 福祉用具の活用にあたり、基本的な留意点を理解する。家庭内におきる事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与について学習をすすめ、自立支援の具体化を理解する。</p>
(6)整容に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	1.0時間	6.0時間	<p><通信学習課題の内容> 整容に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護 <講義内容> 第6章 整容に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護 第1節 整容に関する基礎知識 [1] 整容の意味 [2] 衣類の着脱のもつ意味 [3] 衣類の着脱介助のポイント 第2節 整容の介護 [1] 身だしなみ 第3節 衣類の着脱の介助 [1] 衣類の着脱介助 <演習実施方法> 身体清潔の具体例について演習する。整容(目、鼻、耳、爪切り)など洗面の意義についても学習する。身体状況に合わせた衣類の選択、着脱介助を学習する。 (指導体制) 20人以上の受講生がいる場合は、補助講師を1名追加する。20名以下であっても、必要にあわせて補助講師を確保する。(6)～以下に続く)</p>
(7)移動・移乗に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	1.0時間	6.0時間	<p><通信学習課題の内容> 移動・移乗に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護 <講義内容> 第7章 第1節 移動・移乗の介護の基本 第7章 第2節 体位・姿勢の基本知識 第7章 第3節 移乗を行う際の環境整備 第7章 第4節 移動・移乗介助に関連する福祉用具 第7章 第5節 心身の状態に合わせた移乗介助 第7章 第6節 移動を行う際の環境整備 第7章 第7節 移動介助と留意点 <演習実施方法> 体位・姿勢の確保について、利用者と介助者の安全で安楽な方法、起き上がり動作(ボディメカニズム)について演習する。体位(立位、座位、臥床時)それぞれで学習する。車いす使用による移動介助(外出時)段差ごえ、スロープ(坂道)を介助(全介助を含む)を演習する。肢体不自由者の歩行介助(杖の種類や、杖の位置)介助時の介護者の介助姿勢を演習する。 杖による(2点、3点歩行など)白状使用して、歩行(狭路を含めて)介助を演習する。 ベッドから車いすの移乗(車いすの設置場所)移乗ボード使用による移乗動作介助を演習する。</p>

(8)食事に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	1.0時間	6.0時間	<p><通信学習課題の内容> 食事に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護 <講義内容> 第8章 第1節 食事に関する基礎知識 第8章 第2節 食事の介護 第8章 第3節 口腔ケアの支援技術 <演習実施方法> 食事のもつ意義や嚥下のメカニズムや食生活の仕組みについて学習する。 食事介助のポイント(覚醒状態の確認、姿勢の確保)を臥床時、座位姿勢にて(食事介助、吸い飲みにて)演習する。 障害形態に合わせて、自助具の活用も演習する。口腔ケアの定義や誤嚥性肺炎の予防も学習する。 視覚障害者の介助方法(クロックポジション)や留意点を理解する。 認知症の方の場合の介助方法も演習する。</p>
(9)入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	1.0時間	6.0時間	<p><通信学習課題の内容> 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護 <講義内容> 第9章 第1節 入浴介助の基本 第9章 第2節 入浴介助に関連する福祉用具 第9章 第3節 入浴介助を行う際の留意点 第9章 第4節 入浴介助 第9章 第5節 清拭介助 <演習実施方法> 入浴のもつ意味や、入浴清潔に関連知識を理解する。入浴前のバイタルの定義を学び、演習する。入浴手順(使用物品の確認)を理解し、障害別、入浴の環境(片麻痺で)個浴に入る移動動作や(手すり、入浴いす、シャワーボード、踏み台の位置)介護者の介助方法を演習。全身清拭の方法を演習。</p>
(10)排泄に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	1.0時間	6.0時間	<p><通信学習課題の内容> 排泄に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護 <講義内容> 第10章 第1節 排せつ介助の基本 第10章 第2節 排せつ介護 第10章 第3節 排せつの介助 <演習実施方法> 排せつのもつ意味と仕組み、排泄交換時のプライバシーの保持についての重要性を理解する。排せつ行動のアセスメントを学習する。具体的にどのような利用者がトイレ誘導なのか、尿器やさしこみ便器使用なのか、ポータブル使用なのかを理解する。おむつは最後の手段(その弊害)についても理解する。車いすからのトイレ、ベッドからポータブルトイレへの移乗動作を演習する。尿器、さしこみ便器の使用についても演習する。おむつの種類やその使用方法についてまた、おむつ交換の手順についても演習する。</p>
(11)睡眠に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護	1.0時間	6.0時間	<p><通信学習課題の内容> 睡眠に関連したこころとからだのしきみと自立に向けた介護 <講義内容> 第11章 第1節 睡眠に関する基礎知識 第11章 第2節 睡眠の介護 第11章 第3節 その他の福祉用具 <演習実施方法> 睡眠に関する基礎知識を学習する。さまざまな睡眠環境と用具の活用、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因と支援方法についても学習をする。安眠に対する介護の工夫について寝具の整える方法や関連したこころとからだのしきみと衛生管理について理解する。安楽な姿勢や・褥瘡予防について演習する。 ベッドメイキングの手順、方法を演習する。</p>
(12)死にゆく人に関するこころとからだのしきみと終末期介護	1.0時間	6.0時間	<p><通信学習課題の内容> 死にゆく人に関するこころとからだのしきみと終末期介護 第12章 死にゆく人に関するこころとからだのしきみと終末期介護 第1節 老いと衰えの理解とその対応 [1] ターミナルケアとは [2] 死に至るまでの一般的な経過 [3] 老いと衰えが進みつつある時期のケア 第2節 ターミナルケアの実際 [1] 看取りに向けた体制づくり [2] 臨終が近づいた時の症状や兆候と関わり方 [3] 看取りの実際とグリーフケア (概要) 末期ケアの定義、高齢者の死に至る定義、その終末が近づいた時の兆候と介護について理解する。チームケアとして、他職種との連携を深める重要性を理解し、介護従事者の基本的态度を学ぶ。 <演習実施方法> 事例を用いて、家族の看取りに向けた支援について、グループディスカッションを行う。</p>

(13)介護過程の基礎的理解	0.0時間	6.0時間	<p><通信學習課題の内容> 介護課程の基礎的理解 <講義内容> 第13章 介護過程の基礎的理解 第1節 介護過程の基礎的理解 [1] 介護過程の目的・意義 [2] 介護過程の展開 [3] 介護におけるチームの役割と重要性 第2節 介護過程の展開 [1] 事例の概要 [2] 課題分析標準項目 [3] アセスメント・プロセスシート (概要) 介護過程の目的・意義の理解を深めて介護過程とチームアプローチについて学習(介護計画の立案・評価)をすすめる。 <演習実施方法> 事例を用い、介護過程を展開し、介護計画をグループで立案する。</p>
(14)総合生活支援技術演習	0.0時間	6.0時間	<p><講義内容> 第14章 総合生活支援技術演習 第1節 演習1 要介護1(神谷長太郎さん)の事例 [1] 事例の概要 [2] 生活状況 [3] 課題分析標準項目 [4] アセスメント・プロセスシート 第2節 演習2 要介護3(青山伊代さん)の事例 [1] 事例の概要 [2] 生活状況 [3] 課題分析標準 [4] アセスメント・プロセスシート (概要) 事例による展開 生活場面での介護について、その状態像と支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 事例検討→支援技術の課題(1事例1.5時間程度)で演習する。事例は高齢者分野(2事例) 障害分野(2事例)を取り入れる。 <演習実施方法> 班体制にてグループディスカッションを行う。</p>
合計時間数	12.0時間	63.0時間	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。

演習については実技内容(演習手法等)を、実習については実施方法(学習目的等)を記載すること。

※通信學習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス(学習計画)

科目名(時間)	10 振り返り(4時間)		
到達目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。		
	時間数		学習内容
項目名	通信	通学	
(1)振り返り	0.0時間	2.0時間	<講義内容> 学習到達度チェック <演習実施方法> 「ねらい」と「終了評価のポイント」にそって、各科目的チェックシートにそって、自己評価を実施、終了評価に備える。 各チェック項目は3段階で自己評価 自己評価をして、知識、介護技術の習得度に不足分がある場合、その科目に戻り学習を深める。
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	0.0時間	2.0時間	<講義内容> 質の向上と人材形成。キャリア段位制度と介護技術評価。事業所における実例に学ぶ。 現場職員の体験談、介護職員の仕事内容や働く現場、事業所における研修の実例をあげる。
合計時間数	0.0時間	4.0時間	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。

演習については実技内容(演習手法等)を、実習については実施方法(学習目的等)を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例1)

研修日程表

第1回(クレークコース)

年月日(曜)	時刻	時間	科目及び項目(講義又は演習等の別)	講師氏名 (所属)
平成31年4月15日 (月)	9:30～10:00	0.5	オリエンテーション	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校盛岡校)
		【6.0】	【1.職務の理解】	
	10:00～12:00	2.0	(1)多様なサービスの理解(講義)	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校盛岡校)
	13:00～14:00	1.0	(1)多様なサービスの理解(講義)	
	14:10～16:10	2.0	(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解(講義)	
	16:20～17:20	1.0	(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解(演習)	
		【1.5】	【2.介護における尊厳の保持・自立支援】	
	9:30～10:30	1.0	(1)人権と尊厳を支える介護(講義)	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校盛岡校)
	10:30～11:00	0.5	(2)自立に向けた介護(講義)	
		【1.5】	【4.介護・福祉サービスの理解と医療との連携】	
平成31年4月17日 (水)	11:10～11:40	0.5	(1)介護保険制度(講義)	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校盛岡校)
	11:40～12:10	0.5	(2)医療との連携とリハビリテーション(講義)	
	12:10～12:40	0.5	(3)障害者自立支援制度およびその他制度(講義)	
		【3.0】	【3.介護の基本】	
	13:40～15:40	2.0	(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携(講義)	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校盛岡校)
	15:50～16:50	1.0	(2)介護職の職業倫理(講義)	
			(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント(講義)	
			(4)介護職の安全(講義)	
		【3.0】	【5.介護におけるコミュニケーション技術】	
	16:50～17:50	1.0	(1)介護におけるコミュニケーション(講義)	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校盛岡校)

注) 1 「時刻」欄は、休憩時間等を含まないこと。

2 「講師氏名(所属)」欄には、実習を行う場合は、実習指導者の氏名(所属)を記載すること。

(様式例1)

研修日程表

第1回(クラークコース)

年月日(曜)	時刻	時間	科目及び項目(講義又は演習等の別)	講師氏名 (所属)	
平成31年4月19日 (金)		【3.0】	【6.老化の理解】	藤原 功博 (大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校盛岡校)	
	9:30~11:30 11:40~12:40	2.0 1.0	(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常(講義) (2)高齢者と健康(講義)		
	13:40~14:10 14:10~14:40 14:40~15:10	0.5 0.5 0.5	(1)障害の基礎的理解(講義) (2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識(講義) (3)家族の心理、かかわり支援の理解(講義・演習)		
		【3.0】	【5.介護におけるコミュニケーション技術】		
	15:20~17:20	2.0	(2)介護におけるチームのコミュニケーション (講義・演習)		
平成31年4月22日 (月)		【3.0】	【7.認知症の理解】	藤原 功博 (大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校盛岡校)	
	9:30~10:00 10:00~11:00	0.5 1.0	(1)認知症を取り巻く状況(講義) (2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理(講義)		
	11:10~12:10	1.0	(3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 (講義・演習)		
	12:10~12:40	0.5	(4)家族への支援(講義)		
		【63】	【9.こころとからだのしくみと生活支援技術】		
	13:40~15:10 15:20~16:50	1.5 1.5	(1)介護の基本的な考え方(講義) (1)介護の基本的な考え方(講義)		

注) 1 「時刻」欄は、休憩時間等を含まないこと。

2 「講師氏名(所属)」欄には、実習を行う場合は、実習指導者の氏名(所属)を記載すること。

(様式例1)

研修日程表

第1回(クラークコース)

年月日(曜)	時刻	時間	科目及び項目(講義又は演習等の別)	講師氏名 (所属)
平成31年4月24日 (水)		【63】	【9.こころとからだのしくみと生活支援技術】	
	9:30~11:30	2.0	(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解 (講義)	藤原 功博 (大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校盛岡校)
	11:40~12:40	1.0	(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解 (講義)	
	13:40~14:40	1.0	(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解 (講義)	
	14:50~15:50	1.0	(4)生活と家事(講義・演習)	
	16:00~17:00	1.0	(5)快適な居住環境整備と介護(講義)	
平成31年4月26日 (金)	9:30~11:30	2.0	(11)睡眠に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(講義)	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療 福祉専門学校盛岡校)
	11:40~12:40	1.0	(11)睡眠に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(演習)	
	13:40~15:10	1.5	(11)睡眠に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(演習)	
	15:20~16:50	1.5	(11)睡眠に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(演習)	
平成31年5月8日 (水)	9:30~11:30	2.0	(6)整容に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(講義)	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療 福祉専門学校盛岡校)
	11:40~12:40	1.0	(6)整容に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(演習)	
	13:40~15:10	1.5	(6)整容に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(演習)	
	15:20~16:50	1.5	(6)整容に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(演習)	

注) 1 「時刻」欄は、休憩時間等を含まないこと。

2 「講師氏名(所属)」欄には、実習を行う場合は、実習指導者の氏名(所属)を記載すること。

(様式例1)

研修日程表

第1回(クレークコース)

年月日(曜)	時刻	時間	科目及び項目(講義又は演習等の別)	講師氏名 (所属)
		【63】	【9.こころとからだのしくみと生活支援技術】	
平成31年5月10日 (金)	9:30~11:30	2.0	(7)移動・移乗に関連したこころとからだの しくみと自立に向けた介護(講義)	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療 福祉専門学校盛岡校)
	11:40~12:40	1.0	(7)移動・移乗に関連したこころとからだの しくみと自立に向けた介護(演習)	
	13:40~15:10	1.5	(7)移動・移乗に関連したこころとからだの しくみと自立に向けた介護(演習)	
	15:20~16:50	1.5	(7)移動・移乗に関連したこころとからだの しくみと自立に向けた介護(演習)	
平成31年5月13日 (月)	9:30~11:30	2.0	(8)食事に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(講義)	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療 福祉専門学校盛岡校)
	11:40~12:40	1.0	(8)食事に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(演習)	
	13:40~15:10	1.5	(8)食事に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(演習)	
	15:20~16:50	1.5	(8)食事に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(演習)	
平成31年5月15日 (水)	9:30~11:30	2.0	(9)入浴、清潔保持に関連したこころとからだの しくみと自立に向けた介護(講義)	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療 福祉専門学校盛岡校)
	11:40~12:40	1.0	(9)入浴、清潔保持に関連したこころとからだの しくみと自立に向けた介護(演習)	
	13:40~15:10	1.5	(9)入浴、清潔保持に関連したこころとからだの しくみと自立に向けた介護(演習)	
	15:20~16:50	1.5	(9)入浴、清潔保持に関連したこころとからだの しくみと自立に向けた介護(演習)	

注) 1 「時刻」欄は、休憩時間等を含まないこと。

2 「講師氏名(所属)」欄には、実習を行う場合は、実習指導者の氏名(所属)を記載すること。

(様式例1)

研修日程表

第1回(クレークコース)

年月日(曜) (月)	時刻 時間	時間	科目及び項目(講義又は演習等の別)	講師氏名 (所属)
平成31年5月17日 (月)		【63】	【9.こころとからだのしくみと生活支援技術】	
	9:30～11:30	2.0	(10)排泄に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(講義)	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療 福祉専門学校盛岡校)
	11:40～12:40	1.0	(10)排泄に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(演習)	
	13:40～15:10	1.5	(10)排泄に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(演習)	
平成31年5月20日 (月)	15:20～16:50	1.5	(10)排泄に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護(演習)	
	9:30～11:30	2.0	(12)死にゆく人に関連したこころとからだの しくみと自立に向けた介護(講義)	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療 福祉専門学校盛岡校)
	11:40～12:40	1.0	(12)死にゆく人に関連したこころとからだの しくみと自立に向けた介護(演習)	
	13:40～15:10	1.5	(12)死にゆく人に関連したこころとからだの しくみと自立に向けた介護(演習)	
平成31年5月22日 (水)	15:20～16:50	1.5	(12)死にゆく人に関連したこころとからだの しくみと自立に向けた介護(演習)	
	9:30～11:30	2.0	(13)介護過程の基礎的理解(講義)	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療 福祉専門学校盛岡校)
	11:40～12:40	1.0	(13)介護過程の基礎的理解(演習)	
	13:40～15:10	1.5	(13)介護過程の基礎的理解(演習)	
平成31年5月24日 (金)	15:20～16:50	1.5	(13)介護過程の基礎的理解(演習)	
	9:30～11:30	2.0	(14)総合生活支援技術演習(講義)	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療 福祉専門学校盛岡校)
	11:40～12:40	1.0	(14)総合生活支援技術演習(演習)	
	13:40～15:10	1.5	(14)総合生活支援技術演習(演習)	
	15:20～16:50	1.5	(14)総合生活支援技術演習(演習)	

注) 1 「時刻」欄は、休憩時間等を含まないこと。

2 「講師氏名(所属)」欄には、実習を行う場合は、実習指導者の氏名(所属)を記載すること。

(様式例1)

研修日程表

第1回(クラークコース)

年月日(曜)	時刻	時間	科目及び項目(講義又は演習等の別)	講師氏名 (所属)
		【4.0】	【10.振り返り】	
平成31年5月31日 (金)	9:30~11:30 11:40~12:40 13:40~14:40 14:50~15:50 16:00~16:30	2.0 1.0 1.0 1.0 0.5	(1)振り返り(講義・演習) (2)就業への備えと研修修了後における継続的な 研修(講義) (2)就業への備えと研修修了後における継続的な 研修(講義) 修了試験(筆記試験) 修了式	館沢 英賢 (大原簿記情報ビジネス医療 福祉専門学校盛岡校)

注) 1 「時刻」欄は、休憩時間等を含まないこと。

2 「講師氏名(所属)」欄には、実習を行う場合は、実習指導者の氏名(所属)を記載すること。